【薬学部 臨床薬剤学講座】薬学部 5 回生 堂國 里奈 さんが筆頭著者の論文が Journal of Clinical Medicine 誌に掲載されました。

子宮頸部扁平上皮がん免疫療法の発展につながる可能性！

本学薬学部 5 回生 堂國 里奈 さん（臨床薬剤学講座 所属）が筆頭著者として執筆した論文（英文）が、臨床医学分野の国際的学術雑誌 Journal of Clinical Medicine 誌（Impact Factor 4.964）に掲載されました。

子宮頸部扁平上皮がんは、子宮頸がん全体の 70～90% を占める組織型です。本研究において 堂國 里奈 さんは、ヒト子宮頸部扁平上皮がん由来細胞を用いた実験を行い、免疫チェックポイント分子 Programmed Death Ligand-1（PD-L1）の細胞表面における発現が、細胞内の“足場”タンパク質 Moesin によって制御されることを突き止めました。本研究の成果により、PD-L1 の足場タンパク質 Moesin を治療標的とすることで、再発性あるいは転移性の子宮頸部扁平上皮がんに対する新たながん免疫療法の開発に貢献できる可能性を提唱しました。

なお、本研究は本学薬学部 臨床薬剤学講座と天然薬物学講座との共同研究によるものです。

堂國 里奈 さんのコメント：

『卒業研究を始めるまでは、まさか私が原著論文の筆頭著者になるとは夢にも想っていませんでした。論文執筆を開始した当初は、論理的に文章を構成することの難しさに愕然としたこともありました。しかしそのたびに、科学論文の書き方、読者にわかりやすく伝えるための工夫など、先生方からアドバイスをいただきながら論文掲載を達成することができました。今回の論文執筆を通して、卒業研究の成果を世界へ発信できたという達成感を得られただけでなく、論理的思考力や文章表現力など社会に出てからも必要とされるスキルを養えたことで、人間としてひとまわり成長できたことに大きな喜びを感じています。』

【掲載論文の情報】

雑誌名：*Journal of Clinical Medicine* 2022, 11(13), 3830, https://www.mdpi.com/2077-0383/11/13/3830

タイトル：

Moesin Serves as Scaffold Protein for PD-L1 in Human Uterine Cervical Squamous Carcinoma Cells.

著者：

Rina Doukuni [1], Takuro Kobori [1], Chihiro Tanaka [1], Mayuka Tameishi [1], Yoko Urashima [1], Takuya Ito [2], Tokio Obata [1]

1 Laboratory of Clinical Pharmaceutics, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, 584-8540, Japan

2 Laboratory of Natural Medicines, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, 584-8540, Japan

問い合わせ先（研究に関すること）：
薬学部 臨床薬剤学講座 准教授 小畑 友紀雄
E-mail： obatatoki[at]osaka-ohtani.ac.jp